

確定版

2019年度（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部における 6人制ルールの取り扱いについて

<<<<< 『2019年度 6人制ルールの取り扱い』について、3月23日の審判規則委員会合同会議において、2018年度国内競技会の反省点から、以下の点について取り扱いを統一することを確認しました。>>>>>

これに基づき、「(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部」のルール取り扱いについて、協議・検討を加え、「今年度の取り扱い」を決定しました。

1 競技参加者の行為に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければいけない。

20.1.2 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。

疑問がある場合には、ゲームキャプテンを通じてのみ説明を求めることができる。（規則 5.1.2.1）

20.1.3 競技参加者は、審判員の決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 主審の判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。
- 3 競技参加者が、審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①主審が最終判定を出した後にも審判員に不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②主審がゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③繰り返しゲームキャプテンの質問の内容が規則の適用や解釈でない場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①主副審やラインジャッジの判定に対して執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。
- ②主副審やラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 4 監督が副審やスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
- 5 プレーイングエリア内で「ガム」を噛んだり、帽子をかぶることは許されない。
- 6 試合終了後、監督・主審・副審はフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

中体連でも同様に扱う。

※ 軽度な不法な行為に対する警告は、その後の再発を防ぎ、中学生にフェアプレーの精神を身に付けさせるために、躊躇することなく、早い段階で、ステージ 1 またはステージ 2 を与え対処すべきである。

※ ただし、中学生は、上記のような対処を知らない場合があり、必要に応じて説明し、フェアプレーの精神で礼儀正しく行動するよう指導すること。

- 6 試合終了後、監督・主審・副審の握手については、これを奨励し、協力を求めている。

2 チームリーダーに関する事項

5.1 キャプテン

- 5.1.2 試合中、チームキャプテンはコートに入っているときにはゲームキャプテンとなる。チームキャプテンがコート上にいないときは、監督またはチームキャプテンは、ゲームキャプテンの役割を担うリベロ以外のコート上の選手を指名しなければならない。指名されたゲームキャプテンは、選手交代で退くか、チームキャプテンがプレーに復帰するか、またはそのセットが終了するまで、その責務を担う。

5.2 監督

- 5.2.2 試合開始前、監督は選手の名前、番号を記録用紙のチーム選手欄に記入するか、記入されたものを確認した後、サインする。
- 5.2.3.4 他のチームメンバー同様、コート上の選手に指示を与えてもよい。監督は、試合を妨げたり、遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線から競技コントロールエリアのコーナーにあるウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。もしも、ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合は、監督は、自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよい。

（注）

1 監督の指示

監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特に L 2）の判定の妨げにならないように審判員が注意する。

2 監督が試合に遅れて来た場合

- ① 遅れて来た監督は、ベンチに着席することができる。
- ② ゲームキャプテンは、監督が来たことをラリー間に審判へ口頭で伝える。
- ③ 審判が、監督が来たことを確認したら、監督は権利を行使することができる。
- ④ 監督は、セット間もしくは試合終了後に記録用紙にサインする。

3 ゲームキャプテンの指名

- ① セット開始時に、チームキャプテンがコート上にいない場合、副審は監督またはチームキャプテンにゲームキャプテンを確認する。ただし、次のセット開始時も同様の場合は、前セットに指名された選手がゲームキャプテンになるので、再度監督またはチームキャプテンに確認する必要はない。指名されたゲームキャプテンは、確認のため手を挙げる。ただし、同一選手によるゲームキャプテンの確認は、試合を通して一度でよい。
- ② ゲームキャプテンが、選手交代やリベロリプレイスメントでコートを離れた場合、副審は監督またはチームキャプテンに新たなゲームキャプテンを確認する。
- ③ ゲームキャプテンが、選手交代やリベロリプレイスメントでコートを離れた時、試合中にゲームキャプテンに指名されたことのある選手がコート上にいる場合は、監督またはチームキャプテンからの申し出がない限り、その選手がゲームキャプテンになるので、再度監督またはチームキャプテンに確認する必要はない。
- ④ ゲームキャプテンが、選手交代やリベロリプレイスメントで一旦コートを離れた後、再度コート上に戻ったとしても、監督またはチームキャプテンからの申し出がない限り、現在指名されている選手がセット終了までゲームキャプテンとなる。
- ⑤ セット開始時に、これまでゲームキャプテンに指名された選手がコート内に複数いて、ゲームキャプテンが不明な場合は、監督またはチームキャプテンに再度確認してもよい。

1については、部活動における適切な指導や競技場設定の観点から、ラリー中はベンチに座るようお願いをする。ただし、全日本中学校選手権大会（以下：全中）では、今年度からの取り扱いの趣旨を踏まえ、準決勝・決勝において同様に扱う。

2については、中体連が主催する大会において、元来、監督不在の状況で試合を行うことは出来ないことから、以下の取り扱いとする。

※監督が試合に遅れてくる場合、引率責任をとれる者がベンチに座り試合を行う。なお全中では、監督としての権利は行使できない。その間、ゲームキャプテンはタイムアウトの要求ができるものとする。

※①③④は中体連でも同様に扱うこととするが、②について中体連では「ゲームキャプテン」ではなく、「引率責任をとれる者」が口頭で伝えることとする。

3については、中体連でも同様に扱う。

3 プレーの構造に関する事項

7.3 スターティングラインアップ

7.3.5 コート上の選手のポジションが、ラインアップシートと違う場合には、次のように対処する：

7.3.5.2 セット開始前、そのセットのラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、この選手はラインアップシートに従い変更されなければならない。この場合には罰則の適用はない。

7.3.5.3 しかし、監督がそのようなラインアップシートに記入されていない選手をそのままコートでプレーさせたい場合には、監督は正規の選手交代を、該当するハンドシグナルを用いて要求する必要がある、記録用紙に選手交代が記録される。

もしも、ラインアップシートと選手のポジションの違いが、もっと遅い時点で発見された場合は、間違いのあったチームは、正しいポジションに戻さなければならない。相手チームの得点はそのまま有効で、さらに 1 点と次のサービスが与えられる。間違いをした時点から発見されるまでに、間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。

7.3.5.4 記録用紙のチーム選手欄に登録されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、相手チームの得点はそのまま有効で、さらに 1 点と次のサービスが与えられる。間違いのあったチームは、登録されていない選手がコートに入った時点から得たすべての得点とセット（必要であれば 0-25 として）を失い、修正したラインアップシートを提出し、登録されていない選手がいたポジションに、登録されている選手を新たにコート上に送らなければならない。

7.4 ポジション

サーバーによりボールが打たれた瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内で、ローテーション順に位置していなければならない。

7.5 ポジションの反則

7.5.1 サーバーによりボールが打たれた瞬間に、いずれかの選手が正しいポジションにいない場合は、そのチームはポジションの反則をしたことになる。選手が不法な選手交代をしてコート上にいて、試合が再開された場合は、不法な選手交代によるポジションの反則とみなされる。（規則 7.3, 7.4, 15.9）

7.7 ローテーションの反則

7.7.1 サービスが正しくローテーション順に行われなかったとき、ローテーションの反則となる。その場合は次のような順序の結果となる：

7.7.1.1 スコアラーがブザーによって試合を止めた場合、相手チームに 1 点と次のサービスが与えられる。

もしも、ローテーションの反則により始まったラリーが完了した後に、そのローテーションの反則が指摘された場合は、そのラリーの結果に関係なく、相手チームに 1 点だけが与えられる。（規則 6.1.3）

7.7.1.2 反則をしたチームのローテーション順は正しく直される。（規則 7.6.1）

(注)

- 1 セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合
 - ①副審は、ラインアップシートを監督に示し、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、どちらの選手がスターティングメンバーかを尋ねる。
 - ②監督が、ラインアップシートに記入されていない選手をコートに残すことを要望する場合は、該当するハンドシグナルを示し正規の選手交代を要求する。副審は、ハンドシグナルを示しながらホイッスルをする。スコアラーは、正規の選手交代として記録をする。この際、ラインアップシートどおりの選手をコートに戻す必要はない。(コート上の選手は手を挙げる)
 - ③監督が提出したラインアップシートどおりの選手をスターティングメンバーとすることを要望する場合は、その場で選手を入れ替えさせる。この場合には制裁はない。
 - ④副審は、両チームのラインアップを確認後、主審にシグナルを示し、ゲームが開始される。
- 2 不法な選手交代によるポジションの反則やローテーションの反則により始まったラリーが完了した後にその反則が発見された場合は、ラリーの結果をキャンセルし相手チームに1点と次のサービスが与えられる。また、間違いがもっと遅い時点で発見され、間違いをした時点が明らかな場合は、発見されるまでに間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。
- 3 チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられ、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にラインアップを戻し、得点も誤った情報が与えられた時点まで戻す。タイムアウト、TTO、罰則はそのまま有効とする。これらの事実は、記録用紙に記録されなければならない。
- 4 サービスがヒットされた瞬間に、コート上の選手の足が相手コートに触れていた時は、ラリー中に選手が相手コートへ侵入する場合と同様に考える。(規則 11.2.2.1)

中体連でも同様に扱う。

4 ネットの下からの相手コートへの侵入

11.2.1 相手チームのプレーを妨害しない限り、ネットの下で相手空間に侵入してもよい。

11.2.2 センターラインを越え相手コートに侵入すること：

11.2.2.1 相手コートに侵入している片方の足(両足)の一部がセンターラインに触れているか、センターライン真上の空間にあれば、その足(両足)は相手コートに触れてもよい。

11.2.2.2 相手チームのプレーを妨害しない限り、足首より上の身体の中の部分が相手コートに触れてもよい。

(注)

- 1 選手が、レシーブのためにネット付近でスライディング等のプレーをした時に、誤って相手コートに入ってしまった場合、両足が完全に相手コート上の空間にあったとしても、足が相手コートに触れておらず、相手のプレーを妨害していなければ、反則とはみなさない。

中体連でも同様に扱う。

5 サービスに関する事項

12.3 サービスの許可

主審は、両チームがプレーする準備ができ、サーバーがボールを持っていることを確認した後に、サービスを許可する。

12.5 スクリーン

12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成し、サーバーおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。

12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、ボールがネット垂直面に到達するまでにサーバーとボールのコースの両方を隠すことでスクリーンが形成される。

(注)

- 1 ラリー終了のホイッスルから次のサービス許可のホイッスルまでの時間を、およそ8秒のテンポで行う。
- 2 ラリー終了のホイッスルの後、選手交代やワイピングがない場合、およそ8秒が経過すればサーバーがサービスゾーンでボールを保持していることを確認し、サービス許可のホイッスルをする。
- 3 低いサービスボールが、形成されたスクリーンの上を通過しネット垂直面を通過したときに、スクリーンの反則が成立する。
- 4 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには、サービスのホイッスルの前にコート上の選手が6人になるように促す。もし、主審がそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、主審はそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

中体連でも同様に扱う。

なお、ラリー間のインターバルをおよそ8秒のリズムにするため、以下の点をチームに指導していく。

- ① ボールを拾いに行く場合は、速やかに1人で行く。
- ② ボールを相手コートに送る場合は、安全に注意をし、素早く転がす。
- ③ 次のサーバーは、相手から来るボールをコート内で待たずに、速やかにサービスゾーンに移動し、ボールを待つ。

3については、チームがルールを理解していない可能性があることから、スクリーンを形成していることが明らかな場合、両チームに対して指導と注意を与える。再発を防止するためにも、選手(ゲームキャプテン)が理解しやすい、平易な言葉で指導する必要があるが、指導のために多くの時間を割くことは避けなければならない。再発した場合は、スクリーンの反則が成立する。

6 中断に関する事項

15.11 不当な要求

15.11.1 以下のような正規の試合中断の要求は、不当な要求である。

15.11.1.1 ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時か、あるいはその後に要求すること。

15.11.1.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。

15.11.1.3 インプレー中の選手の負傷や病気の場合を除いて、同じチームが同じ中断中に2回目の選手交代を要求すること。

15.11.1.4 タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。

15.11.2 試合での1回目の不当な要求は、試合に影響を与えず、試合の遅延にならないと拒否される。罰則の適用を受けることはないが、記録用紙には記録される。

15.11.3 同じチームが試合中に、さらに不当な要求をした場合は遅延行為とみなされる。

(注)

- 1 正規の試合中断の要求に関して、チームが不当な要求で拒否された後、その中断中に同じチームによる同じ試合中断の要求は認められないが、違う種類の試合中断の要求は認められる。ただし、15.11.1.1の不当な要求については、サービスの実行が優先され、試合中断の要求はすべて認められない。
- 2 正規の試合中断の要求に関して、チームが遅延警告を受けた場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。(けがや病気による選手交代を除いて)
- 3 5回の選手交代を終えた後に、2人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきた場合、副審は、監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ、他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。
- 4 サービスのホイッスルと同時か、あるいはその後の試合中断の要求は拒否され、ラリー終了後、記録用紙に不当な要求として記載する。もしも副審がホイッスルした場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の処置を行う。

中体連でも同様に扱う。